

第2学年*組 美術科学習指導案

指導者 牛久保 友子

1 題材名 季節の和菓子～てのひらの日本～

2 題材の目標

日本の伝統文化「和菓子」に関心をもち、四季の雰囲気を相手に伝えるため表現の構想を練り、粘土の特性を生かしながら日本固有の色や単純化の方法を踏まえて表現を工夫し、他者の作品から作者の意図と創造的な表現の工夫などを感じ取り味わう。

3 題材について

(1) 題材観

本題材は、中学校学習指導要領「A表現（2）目的や機能を考えた発想や構想」に関連して設けられている。和菓子は、お茶の席で客人に季節を目で楽しませるために重要な役割をもつている。そのため和菓子をつくるには、多くの人が共通に感じる感覚などを意識しながら取り組むことが大切である。その際〔共通事項〕を位置付けた指導を行う。季節の植物や情景からどういうイメージを伝えたいか、そのためにはどのような形や色彩にしていくかを考え、客観的な視点をもって制作することができると考える。

(2) 生徒の実態

事前のアンケートから、制作時に、鑑賞者を意識して表現する生徒が少ないことが分かった。また、絵画制作時には、情景のとらえ方に工夫をする生徒が多いが、自分の感情を意識して表現しようと意識している生徒は少なかった。一方、鑑賞時には、ほとんどの生徒が、対象から形や色彩といった要素に視点を当て、その感情をとらえる力が備わっていることが分かった。

(3) 指導観

これまでの学習では「自分がどう表現したいか」に重きをおいて作品づくりを行ってきた。本題材では、鑑賞者からの視点を考えながら制作を進めていく。和菓子の写真を〔共通事項〕を基に鑑賞することで、季節の植物や情景などの要素がどのように形や色彩として表現されているかを考え、根拠を明確にして感情やイメージをとらえる思考過程を定着させたい。また、この〔共通事項〕を基にしたイメージをとらえる活動で、より自分の表現したいものは何かに迫り、その要素をどのように形や色彩として表現していくかを考え、アイデアスケッチに生かせるようにしていきたいと考える。

4 題材の評価規準

観点	美術への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
評価規準	和菓子に関心をもち、日本固有の色や単純化の方法を踏まえ、主体的に構想を練ったり粘土の特性を生かして表現したりしようとしている。	美的感覚を働かせ、四季の雰囲気を相手に伝えるため、日本固有の色や単純化の効果を生かして美しさなどを考え、表現の構想を練っている。	日本固有の色や単純化の方法を身に付け、表したいイメージをもちながら意図に応じて粘土や用具の生かし方を考え、創意工夫して表現している。	他者の作品から、つくり手の意図や創造的な表現の工夫などを感じ取り、自分の価値意識をもって味わっている。

5 指導と評価の計画（8時間扱い）

次 時	学習のねらい、学習活動	評価の観点				学習活動に即した評価規準 () は評価方法
		関	発	技	鑑	
1 ①	●課題を把握し、表現の構想を練る。 ・和菓子の色や形の工夫を知る。 ・ワークシートに四季の和菓子の構想を練る。	○	○			・和菓子に関心をもち、日本固有の色や単純化の方法を踏まえ、主体的に構想を練ったり粘土の特性を生かして表現したりしようとしている。 (制作の様子、ワークシート)
2	●粘土の特性を知る。 ・映像を見て粘土の特性を知り、また実際に粘土に触れることで、本制作への見通しをもつ。					・美的感覚を働かせ、日本固有の色や単純化の効果を生かして美しさなどを考え、表現の構想を練っている。 (ワークシート、制作の様子)
	※道徳「古都の雅、菓子の心」の実施	/	/	/	/	
2 3	●表現の構想を練り直す。 ・ワークシートに四季の和菓子の構想を練る。	○				・美的感覚を働かせ、四季の雰囲気を相手に伝えるため、日本固有の色や単純化の効果を生かして美しさなどを考え、表現の構想を練っている。 (ワークシート、制作の様子)
3 4	●粘土で和菓子の形をつくる ・表したいイメージをもち、材料うや用具、表現方法などを工夫しながら制作をする。	○				・日本固有の色や単純化の方法を踏まえ、粘土の特性を生かして主体的に表現したりしようとしている。 (制作の様子、ワークシート)
5			○			・日本固有の色や単純化の方法を身に付け、表したいイメージをもちながら意図に応じて粘土や用具の生かし方を考え、創意工夫して表現している。 (作品、制作の様子)
6	●「菓子のしおり」をつくる。	○				・日本固有の色や単純化の効果を生かして美しさなどを考え、表現の構想を練っている。 (カード、制作の様子)
7	・自分の菓子を分かりやすく紹介するためのしおりを考える。 ・材料や用具を工夫しながら制作をする。		○			・表したいイメージをもちながら、意図に応じて創意工夫して表現している。 (カード、制作の様子)
4 8	●互いの作品を鑑賞し合う。			○		・他者の作品から、つくり手の意図や創造的な表現の工夫などを感じ取り、自分の価値意識をもって味わっている。 (ワークシート、鑑賞の様子)

6 本時の学習

(1) 目標

日本固有の色や単純化の効果を生かして美しさなどを考え、表現の構想を練ることができる。
(発想や構想の能力)

(2) 準備・資料

ワークシート、資料集、和菓子とそのモチーフの写真

(3) 展開

学習活動・内容	指導上の留意点（◎評価）
1 学習課題をつかむ。 日本固有の色や単純化の効果を生かして、和菓子のデザインを考えよう。	<ul style="list-style-type: none">和菓子は、食して味わうだけでなく、お茶の席で客人に季節を目で楽しませるために重要な役割をもっていることを伝え、関心がもてるようにする。紅白梅図屏風（光琳作）をイメージした和菓子の存在から、古来より菓銘を聞いて、その背景を理解することが教養の証とされていたことを伝え、日本の伝統文化としての大切さを確認し、課題への意識を高められるようにする。数種類の和菓子の写真を提示し、それぞれが表現する季節を考えることで、表現の工夫に気付けるようにする。和菓子とモチーフになった植物や情景を見比べ、その要素を形や色彩として、どう作品に表現しているか考えることで、アイデアスケッチをする際の一助とする。写実的につくるよりも、そのモチーフのもつ要素を単純化して表現することで、和菓子のもつ洗練された美しさが得られることに気付けるようにする。植物の形だけでなく、情景を作品に取り入れることで、季節を伝える方法もあることを確認する。春夏秋冬それぞれのモチーフにするものを考える際に、その対象の何を表現するかを考えることで、どんな雰囲気の作品をつくるのか深く考える機会をつくる。同じ桜をモチーフとしていても、透けるような薄い花びらに着目して制作した作品と花びらの落ちる様子を形にした作品では、見る人に伝わる花の要素は違うことを伝える。花でも梅と桜では、丸い・薄いといった花びらの表現でそれぞれの植物の特徴の違いが出せることを伝える。 <p>◎美的感覚を働かせ、日本固有の色や単純化の効果を生かして美しさなどを考え、表現の構想を練っている。</p> <p>(発想や構想の能力) (ワークシート、制作の様子)</p>
2 和菓子の鑑賞をする。 ・色や形の特徴を知る。	<ul style="list-style-type: none">植物の形だけでなく、情景を作品に取り入れることで、季節を伝える方法もあることを確認する。春夏秋冬それぞれのモチーフにするものを考える際に、その対象の何を表現するかを考えることで、どんな雰囲気の作品をつくるのか深く考える機会をつくる。同じ桜をモチーフとしていても、透けるような薄い花びらに着目して制作した作品と花びらの落ちる様子を形にした作品では、見る人に伝わる花の要素は違うことを伝える。花でも梅と桜では、丸い・薄いといった花びらの表現でそれぞれの植物の特徴の違いが出せることを伝える。
3 アイデアスケッチをする。 (1) 和菓子のモチーフを考える。 (2) ワークシートにアイデアスケッチを描く。	<p>◎美的感覚を働かせ、日本固有の色や単純化の効果を生かして美しさなどを考え、表現の構想を練っている。</p> <p>(発想や構想の能力) (ワークシート、制作の様子)</p> <p>(A) 表現しようとする季節の形や色彩、イメージなどについて問いかけることで、更によりよいアイデアを考えるきっかけをつくる。</p> <p>(C) 生徒の制作意図を聞き、形や色彩などの例を挙げることで、具体的なイメージがもてるようになる。</p>

4 相互鑑賞をする。	<ul style="list-style-type: none">お互いのアイデアスケッチを見ることで、そこに描かれた表現の工夫を知り、今後の自分の制作に生かしていこうとする意欲を高める。
5 本時のまとめをする。	<ul style="list-style-type: none">自分が表現しようとする四季のイメージが、描いた形や色彩で相手に伝わるか、振り返ることができるようにする。全体の参考となるアイデアスケッチを取り上げ、そのよさを共有することで、新たな視点をもって次時に 臨めるようにする。